

墨田区

学校保健会だより 40

令和 4 年度

◇学校保健会だより④⑩発行に寄せて

墨田区学校保健会 会長 片山 佳子



平素より学校保健活動にご尽力いただき誠にありがとうございます。3年ぶりの開催となった第41回学校保健会総会も無事終了いたしました。感染予防の面から多くの会議、研修会がオンラインで行われるようになり、その便利さを享受することにも慣れてきたこの頃ですが、普段は会うことの少ない学校保健に関わる多職種の方々が集う貴重な機会として、話し手の熱意、聞き手の反応などが直接感じられる対面ならではの良さもあることを実感いたしました。本年は残念ながら記念講演会は中止となりましたが、来年はぜひ開催されることを願っております。

前回の学校保健会総会は令和2年2月でした。その後、新型コロナウイルス感染拡大により、取り巻く環境は大きく変わってしまいました。緊急事態宣言、学校の閉鎖、止められない学び、再開にむけての感染予防への取り組み、次々と降ってくる決まり事への対応など、学校保健に関わる皆さまも各々の立場で大変なご努力をなさったことと思います。

私たち学校薬剤師は日頃、学校の環境衛生検査

を実施し、その結果についての指導助言を行っています。建物・設備の管理がきちんと行われていて学校保健安全法という法律で決まった基準を満たしている事が評価のポイントとなります。コロナ禍の中では、消毒薬の使い方の注意、使用しない状態でのプールの水質維持、換気の方法、抗原検査キットについてなど、より広い分野について先生方とお話する機会が増えました。

検査で訪問するたびに学校が急速にIT化されていることも感じました。小学校低学年からタブレットを上手に使いこなしている今、学びの方法は大きく変化しており、環境基準もそれに相応しいものへと変わっていくと予想されます。

学校保健会では、現在、新たな「墨田区児童生徒の健康白書」の発行を予定しています。そこではコロナ禍に学校関係者がどう対応したのか、児童・生徒の健康に与えた影響はどうだったのかを一旦総括するものとし、今後のWithコロナ生活で学校保健はどうあるべきか、を考えて行きたいと思っております。皆さまの一層のご協力をよろしく願います。

目次

- | | |
|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| P1 学校保健会だより④⑩発行に寄せて
墨田区学校保健会 会長 片山 佳子 | P6 保健室から「いつでも誰でも利用できる保健室」
寺島中学校 養護教諭 玉木 菜生 |
| P2 第41回墨田区学校保健会総会開催される
～永年勤続功労者9名に感謝状～ | 墨田区立小中学校児童・生徒の体位(令和3年度) |
| P3 令和4年度各種研究大会参加者の報告
横川小学校 学校薬剤師 溝渕 祐子
竪川中学校 学校薬剤師 赤間 令子 | P7 墨田区立小中学校定期健康診断疾病異常
集計表(令和3年度) |
| P5 学校保健会だより「歯周病菌ピラミッド」
第三吾嬬小学校 学校歯科医 長澤 太郎 | P8 墨田区立小中学校における負傷別災害発生
状況(令和3年度)
令和4年度東京都教育委員会表彰被表彰者 |

◇第 41 回墨田区学校保健会総会開催される

～永年勤続功労者 9 名に感謝状～

第 41 回墨田区学校保健会総会が、去る 2 月 16 日(木)午後 2 時から曳舟文化センターにおいて、学校保健関係者約 50 名の参加のもと開催されました。最初に、令和 4 年度学校医等永年勤続功労者 9 名に、加藤裕之教育長から感謝状の贈呈が行われました。

感謝状贈呈の後、加藤裕之教育長から祝辞があり、墨田区学校保健関係者に対する謝意と学校教育における保健の重要性が述べられました。

次に、主催者を代表して片山佳子墨田区学校保

健会会長が挨拶され、引き続き片山会長が総会議事の議長、齊藤伸治副会長が副議長として選任されました。令和 4 年度の事業報告及び令和 5 年度の事業計画(案)について審議され、いずれも原案どおり了承されました。

続いて、「令和 4 年度全国学校保健・安全研究大会」に参加していただいた学校薬剤師の溝渕祐子先生、「令和 4 年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会」に参加していただいた学校薬剤師の赤間令子先生から、それぞれ貴重なご報告をいただきました。

永年勤続功労感謝状受賞者

30 年（区長表彰）

職種	氏名	委嘱校
学校医 (内科)	佐々木 豊	柳島幼稚園
学校医 (内科)	鈴木 洋	立花幼稚園
学校医 (耳鼻咽喉科)	竹田 英子	外手小学校 二葉小学校 両国小学校 第三寺島小学校 本所中学校 第三寺島幼稚園

(敬称略)

25 年（教育委員会表彰）

職種	氏名	委嘱校
学校医 (内科)	大倉 史也	第二寺島小学校

(敬称略)

15 年（教育委員会表彰）

職種	氏名	委嘱校
学校医 (内科)	大室 博之	錦糸小学校
学校医 (内科)	木村 トミ子	隅田小学校
学校医 (耳鼻咽喉科)	吉田 憲司	第一寺島小学校 曳舟小学校 隅田小学校 梅若小学校 桜堤中学校 曳舟幼稚園
学校歯科医	吉江 保隆	墨田中学校
学校薬剤師	白石 弘子	曳舟小学校 曳舟幼稚園

(敬称略)

受賞者へ表彰の様子



総会議事の様子



令和4年度全国学校保健・安全研究大会

横川小学校 学校薬剤師 溝渕 祐子



令和4年度の標記大会が、岩手県盛岡市民文化ホールにてハイブリッド開催されました。今回、第4課題の「現代的健康課題～多様化する現代的健康課題に適切に対応するための保健活動の進め方～」についてご報告致します。

まず高崎市立倉渕中学校教諭より、「心身の健康と体力向上の取り組み」として、ICTを活用したランニングなどでの体力向上により、生徒に自己肯定感が芽生えたという発表がありました。仲間と連携し、中学生として課題の自己解決につながられていることが分かりました。食育では、試合前や受験期の食の重要性を学び、実際にお弁当作りや教科と関連した献立づくりが行われていることが紹介されていました。

岩手県立花巻北高等学校教諭の発表の中では、生徒がスマホの影響・食生活・地球温暖化などにテーマを絞り、解決するために個人・地域社会・国レベルの対策をそれぞれ考えていました。少子高齢化や感染症対策のような社会事象に対しても、主体的に意思決定・行動選択できるような人材育成を目指されているとのことで、研究テーマが将来の進路選択の一助になったケースも紹介されました。

最後の気仙沼市立九条小学校養護教諭の発表では、全校で取り組む生活習慣づくりを、とにかく楽しみながら繰り返し、日常化につながるよう意識されている様子が伝わってきました。「健康おみくじ」の設置では、児童が外遊びしたくなるような工夫がされ、普段人気のない竹馬や登り棒でも遊ぶようになったそうです。体重管理では、タブレットを使用することで、プライバシーを守り、保護者の負担が減るように配慮されていることも分かりました。

会場からのご質問の中で、課題が多いご家庭から協力を得づらいことや、外国人が多い地域では食生活の改善が難しいことが挙げられました。小学生では肥満が増えている、中学生では筋力が落ちてやせが増えてしまったという例もあるようです。コロナ禍前後で、歯・視力・肥満などの問題にどのような変化があったのか興味深いと感じます。

横浜国立大学の物部教授の講義では、述べられた光景を、会場の先生方が絵に描いてみるという場面がありました。描き終わった絵の違いを見ることで、同じことを聞いても解釈の仕方は人それぞれであるということを実感致しました。2人以上で考え、問題を話すことが考えを見直し、視野を広げることにつながると理解できました。

物部教授より、生徒が課題に没頭することで保護者にも関心を持ってもらいたいというお言葉もありました。コロナ禍は困難にチャレンジする機会として、より学びを活用し、新しい状況を創発する機会につながる可能性があるとのことでした。また、全国の先生方はタブレットを活用すると、生徒はより興味を示し、大人の想像以上に使いこなすと感じられているようでした。知識を深め行動に移せるようにするための工夫のひとつになっていると思われます。

コロナ禍での情報は日々変わり、それに伴い現代の健康課題も変化しやすく、多様化しています。全国大会では学校での様々な取り組みを知ることができ、感心致しました。変化する環境の中、学校薬剤師として先生や生徒の気持ちに共感し、問題意識を共有できるように努力してまいりたいと感じております。

令和 4 年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会

豎川中学校 学校薬剤師 赤間 令子



令和 4 年 11 月 17 日、18 日に和歌山県で開催された標記大会の Web 配信と 11 月 26 日～12 月 5 日のアーカイブ配信で研究協議を視聴しました。

課題「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育」ではアンチドーピングに関する教育の重要性について、和歌山県薬剤師会からの発表がありました。

ドーピングはスポーツの文化的価値を失わせる行為であるだけでなく、健康被害（筋肉増強剤や興奮薬の使用による精神障害、引退後のうつ症状など）をもたらします。正しく知ることが非常に重要となりますが、実際は若年層や指導者等にドーピングの知識がほとんどないことが課題とのことでした。コンピュータゲームも今では e-SPORTS というスポーツ競技となり、大会によってはドーピング検査が実施されるようになっていくそうです。こうした状況からも実際に児童生徒が授業を通じてスポーツの価値や楽しさとともにアンチドーピングについても考え話し合う機会を作っているとのことでした。

課題「医薬品に関する教育」では薬の使い方の最近の問題点について、兵庫県薬剤師会から、カフェインの過剰摂取、韓国産ダイエット薬、オーバードーズなどがあげられました。

SNS の普及により医薬品の知識が乏しくても容易に薬の入手が可能となっているのが問題の一つとされているようです。健康被害をもたらすことを理解していない若年層が多く、危険な行為だということを伝え正しい薬の使い方を指導するためスライドを作成し活用しているとのことでした。

課題「学校環境活動」では「新型コロナ禍における学校環境活動と今後の学校環境の在り方」についてディスカッションされました。

岐阜県や千葉県、和歌山県の取り組みなどが発表されました。1 日 1 回以上の消毒、どのように、どの薬品がいいか、休校明けの水道水の水質の安全性の確認などいくつもの課題があり様々な試行錯誤があったとのこと。換気は対角線上に開放面積が小さい窓を開けるよう指導。CO₂モニター、扇風機、サーキュレーターの使用も推奨。消毒は 1 日 1 回でよい、60%のエタノール（消毒用エタノール不足により）、次亜塩素酸使用を適所に用いるなどの工夫をした、とのことでした。プールは大量の藻が発生し、濾過機が動かないなどのトラブルや、更衣室での感染の懸念のため密にならないよう体育館での着替え、少人数、時間短縮など様々な問題に対処したそうです。

今回の研究協議会を視聴し感じたことは、学校教育に求められるものが以前より多岐にわたっていること、インターネットなどの普及により多くのことが簡単に調べられるが、断片的な情報で、ある側面しか理解しないまま安易に児童生徒が手を出すことができってしまうということ。自ら考えるきっかけとなるような授業、教育は重要であるということでした。

また、新型コロナウイルス以外にも自然災害のような不測の事態に対しても迅速に対策をとるために、日々学校との連携をとっておくことは学校薬剤師として重要だと感じました。

◇歯周病菌ピラミッド

第三吾嬬小学校 学校歯科医 長澤 太郎



お口の中には様々な微生物が生息しています。およそ700種類の細菌が生息し、歯の表面、歯周ポケット、舌表面や頬粘膜などに細菌の集団を形成しています。これらの細菌を歯周病の原因と関連の深い順に、ピラミッド様に図式化したものを歯周病菌ピラミッドと呼んでいます。

このピラミッドの図では、歯の病原性ごとに3つのブロックに分類されます。最下層のブロックには善玉菌や歯周病を悪化させにくい弱毒性の菌が、真ん中のブロックには低～中病原性歯周病菌が、そして最上部のブロックには高病原性歯周病菌が分類され、このブロックはレッドコンプレックスと呼ばれています。

お口の中の細菌叢は10代で形作られていき、20代で定着すると言われています。小、中、高校時代の口腔ケアが非常に大事になってくる訳です。

高病原性歯周病菌の細菌叢が形成されると、少量でも歯周病を発症しますが、低病原性歯周病菌で細菌叢が形成されても多量じゃないと発症しなかったり、軽い症状で済みます。

レッドコンプレックスに分類される菌は、Pg菌、Tf菌、Td菌の3種類があり、お互いがその代謝産物を栄養素として利用している共同体として生息しています。

この3種類が揃うと歯周病はぐっと進行してしまいます。

さらに、現在ではこれらの菌の中でも特にPg菌が最も病原性の高い菌とされています。この菌は、歯周ポケットが健康であれば強い毒性は出しませんが、ポケットが深くなると、嫌気性の菌であり、ポケット内の出血により、赤血球の鉄分とタンパク質を栄養素として病原性を強め、歯槽骨をどんどん溶かしていく歯周病に進行していきます。

また、この3種類の菌の他にも真ん中のブロッ

ク、このオレンジコンプレックスにも歯周病の進行に大きな影響を与える菌があります。

Pi菌は一般的に多くの人の口腔内に常在していますが、口腔内を不潔にすると歯周病を起こす原因になります。

もうひとつ、Aa菌というのがあります。この菌を保有していると、若年時から重篤な歯周病に進行する危険性があります。

歯周病の重症化をピラミッドで例えて説明していきましょう。

まず、多数の弱毒性細菌がたくさん出てきてピラミッドの低層を作っていきます。続いて歯肉炎が起き、口腔内環境が変わっていき、歯周ポケットが深くなり始めると中間層、オレンジコンプレックスが出てきます。さらにポケット内の環境が悪くなってくると、最上部、レッドコンプレックスが出てきてピラミッドが完成されます。

レッドコンプレックスを作らせる前に予防処置、早期治療が必要になります。

学校健診でも歯肉炎、要注意歯肉の受診勧告は出しますが、細かく菌種を調べたりとかは難しいと思われま

す。親子間の垂直感染も重要な問題になります。親子で持っている歯周病菌は、ほぼ共通しています。先述したAa菌も垂直感染で見つかっています。被験者は小学生。

ご両親の協力を得て、細菌検査をするとやはりAa菌が検出され、小学生の親という比較的若年層であるが、欠損歯が多数あり、入れ歯を使っていたと、都学歯のブロック講習会の講演で報告がありました。

学校健診、虫歯から歯周病に重点を置くのも必要だと思います。

◇保健室から「いつでも誰でも利用できる保健室」

寺島中学校 養護教諭 玉木 菜生

「いつでも誰でも利用できる保健室」という言葉を、養護教諭なら一度は目にしたり口にしたりしたことがあるのではないのでしょうか。ありきたりな言葉と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、私が保健室を経営する上で、この言葉をとっても大切にしています。

私が養護教諭として現場に出るまで、「いつでも誰でも利用できる保健室」という言葉はいわゆる便利な定型文のようなものでした。大学のレポートを作成するにあたって、あるいは教員採用試験の面接で発言する内容として使っておけば、もしかしたら良い評価をもらえるだろう程度のとても便利な言葉でした。

私がこの言葉を保健室経営の理念として深く考えるようになったきっかけは、初めて産育代替として学校に出た時です。初めての学校ということもあり、お休みに入られる前のA先生の補助として週に3日、保健室のお手伝いをさせていただきました。来室生徒への問診やけがの手当て、体調不良者を教室に戻すまたは休養させる等の判断までも厳しくチェックしていただき、まるで教育実習中のような緊張感溢れる日々を送っていました。

そんな日々が続く中、ある生徒が頭痛を訴えて来室しました。A先生に見守られながら、私はいつもどおり問診を行いました。発熱はないけれど、食欲がなく朝食は食べてきていない、頭の痛みがひどくなっている、このことから保健室で休養させる判断をしました。しかしA先生は、「提出物出してないよね。だから具合悪くなったって言っているのでしょうか。教室に戻りなさい。」そう言って生徒を教室に戻したのです。

その後、「あの子はいつも提出物を出さないし、生活態度が悪い。だから頭痛も嘘でしょう。」と話しました。確かに、提出物を出さず、生活態度が悪いかもしれない。

けれど、もしかしたら本当に具合が悪かったのかもしれない。たとえ嘘であったとしても、嘘をついてまで体調不良を訴える背景には何か理由があるはず、生徒の見かけの問題行動だけで嘘と判断してよいのだろうか、私は思いました。

その後、私は何校か産育代替を経験したのち、正規合格しました。これまで関わってきた生徒の中には、もちろんサボり目的で嘘をついて来室した生徒もいます。問診で異常がみられない生徒や、来室した際の表情や雰囲気、事前の生徒情報等で怪しいと思う生徒には必ず、「最近どう？」と聞くようにしています。最初は何も答えなかった生徒も、何気ない会話を繰り返していくうちに「実は…」と話し始めます。そこから、問題の早期発見に繋がった事例も少なくありません。

生徒が1時間保健室で休んで気持ちをスッキリさせ、その後の授業を頑張れるのなら、来室理由がたとえ嘘かと思えることであっても私はその生徒の思いを受け止めたいと思います。時には、嘘と分かっているにあえて騙されたふりをして接することで、見えてくる生徒の姿もあります。

便利な定型文と感じていた「いつでも誰でも利用できる保健室」という言葉には、「どんな状況でも、成績が良いとか生活態度が悪いとか関係なく、どんな人でも利用できる保健室」という深い意味が込められているのだと、経験を通して実感することができました。

しかしながら、いつも生徒を受け入れるのではなく、生徒の問題を見極め、時には背中を押して教室に戻していくことも必要です。今後さらに経験を積み、養護教諭として適切な判断ができるよう、日々精進していきたいと思えます。

◇墨田区立小中学校児童・生徒の体位（令和3年度）

学年	男女別区分	男		女	
		身長(cm)	体重(kg)	身長(cm)	体重(kg)
小1		117.2	21.6	116.3	21.0
小2		123.4	24.3	122.5	23.8
小3		128.6	27.1	128.5	26.9
小4		134.7	31.3	134.7	30.2
小5		140.1	34.7	141.4	34.9
小6		146.7	39.7	147.9	39.9
中1		154.6	45.0	152.7	44.0
中2		161.9	50.3	155.6	48.2
中3		166.5	54.5	156.7	49.2

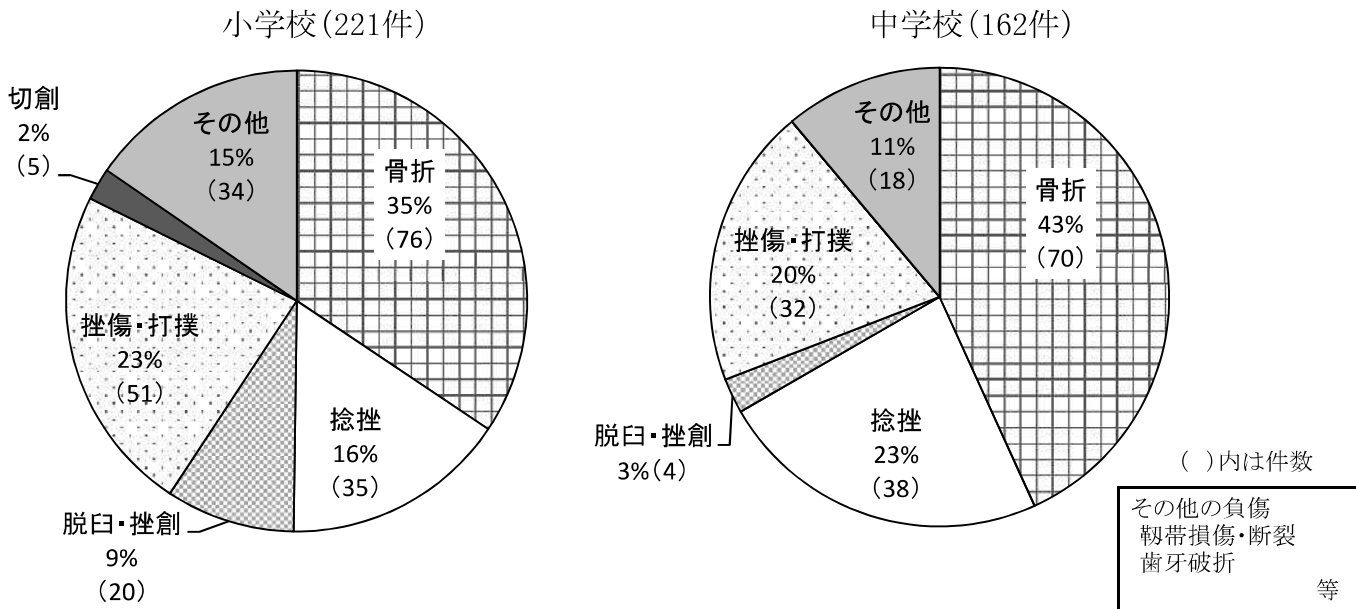
◇墨田区立小中学校定期健康診断疾病異常集計表（令和 3 年度）

項目	学 年	小学校							中学校				合計	
		1	2	3	4	5	6	小計	1	2	3	小計		
1.在籍者数		1,756	1,736	1,734	1,646	1,672	1,707	10,251	1,304	1,320	1,386	4,010	14,261	
2.受診者数		1,753	1,722	1,693	1,625	1,650	1,680	10,123	1,256	1,237	1,276	3,769	13,892	
3.栄養 状態	(1)栄養不良	1	0	3	14	22	13	53	8	2	5	15	68	
	(2)肥満傾向	43	52	54	73	98	76	396	21	14	28	63	459	
4.脊柱胸 郭四肢	疾病・異常者数	10	16	14	18	14	29	101	21	30	39	90	191	
	(1)脊柱側弯症・脊柱異常	4	11	10	11	6	19	61	9	20	17	46	107	
	(2)胸郭異常	1	1	1	0	1	0	4	2	0	3	5	9	
	(3)四肢異常	5	4	3	7	7	11	37	9	8	19	36	73	
5.視力	裸眼視力測定者 (1)~(4)の合計	1,726	1,699	1,670	1,521	1,497	1,474	9,587	1,013	931	942	2,886	12,473	
	(1)1.0以上	1,227	1,141	1,006	798	765	733	5,670	414	340	366	1,120	6,790	
	(2)1.0未満0.7以上	327	266	236	221	191	170	1,411	151	135	136	422	1,833	
	(3)0.7未満0.3以上	144	197	292	289	280	281	1,483	208	211	214	633	2,116	
	(4)0.3未満	28	95	136	213	261	290	1,023	240	245	226	711	1,734	
	(1)~(4)のうち眼鏡・コンタクト装用者	16	36	65	123	159	189	588	102	94	81	277	865	
	眼鏡・コンタクト装用のため矯正視力のみ測定者	19	26	54	112	154	212	577	264	332	378	974	1,551	
6.眼疾患	受診者	1,742	1,721	1,679	1,628	1,633	1,677	10,080	1,251	1,212	1,277	3,740	13,820	
	疾病・異常者数	49	49	86	51	72	61	368	49	62	71	182	550	
	(1)感染性眼疾患	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	(2)アレルギー性眼疾患	31	22	31	24	35	24	167	36	44	49	129	296	
	(3)その他の眼疾患	20	27	54	28	38	36	203	12	19	23	54	257	
7.聴力	受診者	1,726	1,726	1,731	—	1,660	—	6,843	1,273	—	1,288	2,561	9,404	
	難聴	37	15	11	—	7	—	70	6	—	5	11	81	
8.耳鼻咽 喉科疾 患	受診者	1,744	1,731	1,725	1,641	1,646	1,687	10,174	1,264	1,216	1,273	3,753	13,927	
	(1)耳疾患	158	140	101	123	80	101	703	125	97	104	326	1,029	
	(2)鼻・副鼻腔疾患	112	136	153	150	159	144	854	167	162	153	482	1,336	
	ア アレルギー性鼻疾患	55	65	92	77	95	89	473	144	140	157	441	914	
	イ その他の鼻・副鼻腔疾患	57	71	62	76	67	58	391	64	64	48	176	567	
(3)口腔咽喉頭疾患	4	0	3	7	2	6	22	1	1	0	2	24		
9.皮膚疾 患	(1)感染性皮膚疾患	8	2	3	7	2	5	27	0	0	0	0	27	
	(2)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎)	19	21	23	34	25	38	160	12	20	26	58	218	
	(3)アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎以外)	0	0	0	1	1	2	4	0	0	0	0	4	
	(4)その他の皮膚疾患	5	3	13	6	9	3	39	2	1	2	5	44	
10.結核	受診者	1,755	1,735	1,740	1,649	1,673	1,705	10,257	1,278	1,269	1,337	3,884	14,141	
	(1)結核患者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(2)精密検査対象者	6	0	3	2	1	1	13	9	1	1	11	24	
11.心臓	受診者(心電図検査)	1,746	—	—	—	—	—	1,746	1,240	—	—	1,240	2,986	
	(1)心臓疾患	29	12	12	4	6	4	67	43	11	3	57	124	
	(2)心電図異常	49	—	—	—	—	—	49	56	—	—	56	105	
12.検尿	受診者	1,755	1,735	1,736	1,645	1,669	1,703	10,243	1,279	1,266	1,329	3,874	14,117	
	(1)尿蛋白検出	2	4	7	9	7	18	47	15	22	13	50	97	
	(2)尿糖検出	1	0	0	1	1	1	4	1	3	1	5	9	
13.その他	(1)気管支喘息	19	29	19	25	30	30	152	26	22	37	85	237	
	(2)腎臓疾患	1	2	2	2	0	2	9	0	2	0	2	11	
	(3)言語障害	1	1	2	0	0	0	4	0	0	0	0	4	
	(4)その他の疾病・異常	23	16	13	18	13	11	94	40	21	56	117	211	
14.歯科	(1)歯科受診者	1,748	1,722	1,723	1,636	1,645	1,675	10,149	1,240	1,158	1,278	3,676	13,825	
	(2)乳歯又は永 久歯のうち 要観察歯	ア 処置完了者	166	258	348	337	330	228	1,667	215	165	239	619	2,286
		イ 未処置歯のある者	201	221	293	252	224	170	1,361	156	158	193	507	1,868
	(3)歯肉の 状態	ウ 永久歯のうち経験者	24	79	170	191	278	258	1,000	326	313	429	1,068	2,068
		エ 乳歯又は永久歯に要観察歯のある者	65	82	87	106	103	88	531	151	158	166	475	1,006
	(4)歯列・咬合の異常	ア 歯周疾患	4	6	9	16	33	29	97	45	47	82	174	271
		イ 歯周疾患要観察者	29	71	14	44	37	55	250	182	158	163	503	753
	(5)顎関節の異常	6	23	32	28	43	40	172	14	16	20	50	222	
	(6)歯垢の状態(歯石含む)	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2	
	(7)歯垢の状態(歯石含む)	30	62	62	65	83	69	371	76	84	104	264	635	
	(8)永久歯の う歯の内容	ウ 処置歯数(F)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ア 未処置歯数(D)	—	—	—	—	—	212	212	302	—	—	302	514	
	イ う歯による喪失歯数(M)	—	—	—	—	—	20	20	18	—	—	18	38	
	ウ 処置歯数(F)	—	—	—	—	—	374	374	558	—	—	558	932	

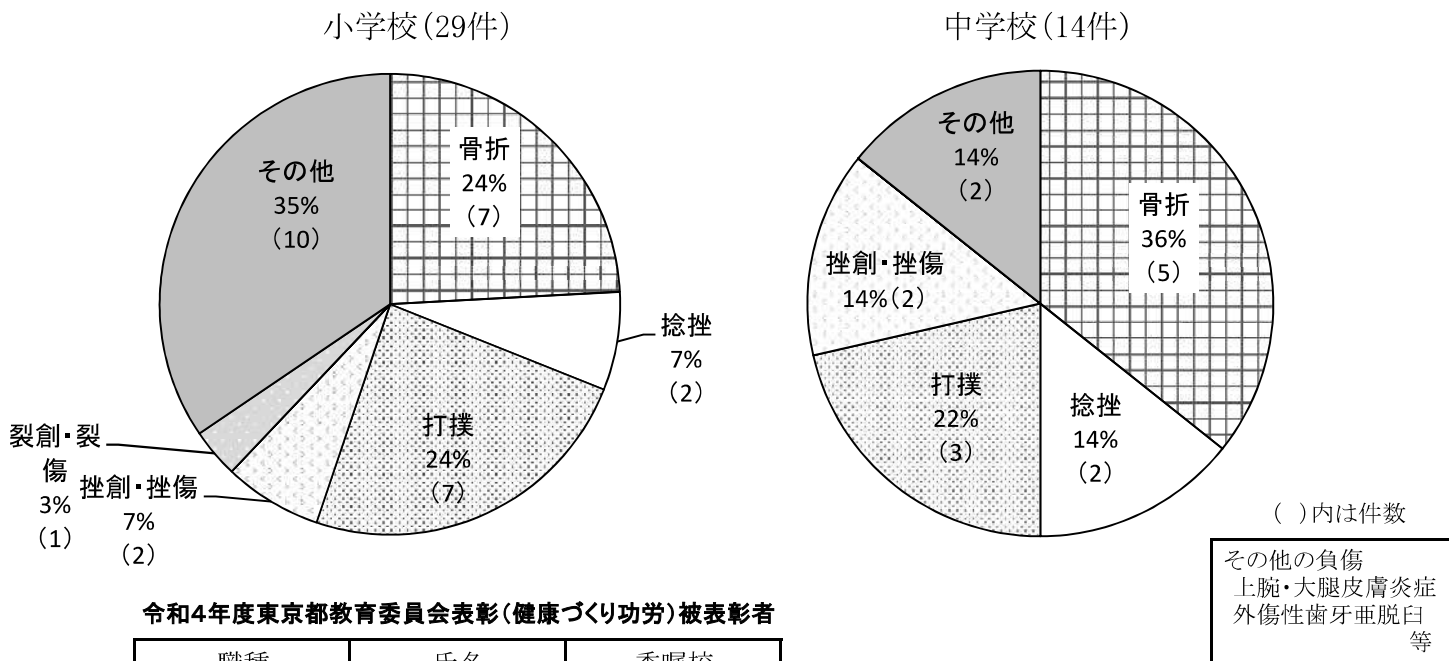
※「—」は受診対象外

◇墨田区立小中学校における負傷別災害発生状況(令和3年度)

1. 日本スポーツ振興センター災害共済給付制度(学校管理下)



2. 墨田区学童災害共済見舞金給付制度(学校管理下外)



令和4年度東京都教育委員会表彰(健康づくり功労)被表彰者

職種	氏名	委嘱校
学校医 (耳鼻咽喉科医)	齋藤 成明	言問小学校 小梅小学校 横川小学校 第四吾嬬小学校 両国中学校
学校薬剤師	稲葉 一郎	二葉小学校

(敬称略)

墨田区学校保健会だより 第40号

発行 墨田区学校保健会
事務局 墨田区教育委員会事務局学務課内
墨田区吾妻橋一丁目23番20号
電話 03-5608-6305